

事業者排出量削減報告書

|                           |  |  |  |                 |                                 |             |         |
|---------------------------|--|--|--|-----------------|---------------------------------|-------------|---------|
| 住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）    | 京都府長岡京市神足焼町1番地   |  |  |                 |                                 |             |         |
| 氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）    | パナソニック セミコンダクターディスクリートデバイス株式会社<br>代表取締役社長 池永 泰夫  |  |  |                 |                                 |             |         |
| 事業者の主たる業種                 | 電気機械器具製造業  |  |  |                 |                                 |             |         |
| 該当する事業者要件                 | <input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上））<br><input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上））<br><input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上）） |  |  |                 |                                 |             |         |
| 計画期間                      | 平成20年4月～平成23年3月  |  |  |                 |                                 |             |         |
| 基本方針                      | 【パナソニック セミコンダクターディスクリートデバイスグループ トップコミットメントより抜粋】<br>パフォーマンスの確実な実践：省エネルギー、省資源、化学物質削減、廃棄物排出量削減を実践する。  |  |  |                 |                                 |             |         |
| 推進体制                      | 社長を環境事業経営者とする「全社環境組織」を設置し、ISO14001を円滑且つ効率的に運営する事により、省エネルギーを計画的に且つ確実に実施する。  |  |  |                 |                                 |             |         |
|                           | 環境マネジメントシステム名称   | ISO14001   |  |                 |                                 |             |         |
|                           | 適用範囲   | 本社（長岡京及び梅津）・亀岡事業場の全領域  |  |                 |                                 |             |         |
| 取得年月日                     | 1997年6月24日   |  |  |                 |                                 |             |         |
| 年度ごとの具体的な取組及び措置の状況        | 年度   | 設備、対象、工程等  | 措置内容   |                 |                                 |             |         |
|                           | 20   | 工場製造部門(亀岡)   | コージェネレーション設備発生冷水利用促進、工程見直し及び品質改善による生産効率向上、動力等の見直し(例:油圧⇒電動モーター) |                 |                                 |             |         |
|                           | 20   | 施設・原動技術部門  | ソーラー発電システムによる配電、パッケージ型(業務用)インバーター式エアコンの導入、屋根の断熱遮熱化による空調負荷低減。   |                 |                                 |             |         |
|                           | 20   | オフィス・共用場所  | 省電力型照明器具への大幅更新並びにトイレ等の自動点消灯化、インバーター式エアコンの導入、ケルヒス・ウォームビス推進。     |                 |                                 |             |         |
| 温室効果ガスの排出量等               | 排出区分   | 基準年度（実績）<br>（19）年度<br>（二酸化炭素換算）  | 目標年度（計画）<br>（22）年度<br>（二酸化炭素換算）                                | 増減率<br>（計画）     | 報告年度（実績）<br>（20）年度<br>（二酸化炭素換算） | 増減率<br>（実績） |         |
|                           | A 事業所等排出区分   | 9,116 t  | 8,897 t  | -2.4 %          | 7,270 t                         | -20.3 %     |         |
|                           | B 輸送車両排出区分   | t  | t  | %               | t                               | %           |         |
|                           | C その他排出区分  | t  | t  | %               | t                               | %           |         |
|                           | 排出合計   | *1 9,116 t   | *2 8,897 t   | -2.4 %          | *4 7,270 t                      | -20.3 %     |         |
|                           | 実績に対する自己評価   | 本社及び亀岡事業場は計画した並びに計画外の多彩な省エネ施策を講じた事により十分な省エネ成果を挙げる事ができた。亀岡事業場(用途:工場)においては、気象低迷による減産の影響により、予測以上のエネルギー使用量減となった。 |  |                 |                                 |             |         |
| 原単位当たりの温室効果ガス排出量等         | 用途区分   | 原単位の指標   | 基準年度（実績）   | 目標年度（計画）        | 増減率（計画）                         | 報告年度（実績）    | 増減率（実績） |
|                           |  | 二酸化炭素換算  |  |                 | %                               |             | %       |
|                           |  | 二酸化炭素換算  |  |                 | %                               |             | %       |
|                           |  | 二酸化炭素換算  |  |                 | %                               |             | %       |
| 実績に対する自己評価                |  |  |  |                 |                                 |             |         |
| その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等 | 対策等の区分   | 目標年度（計画）   |  |                 |                                 | 報告年度（実績）    |         |
|                           |  | 取組量等   | （二酸化炭素換算）  |                 | 取組量等                            | （二酸化炭素換算）   |         |
|                           | 森林の保全及び整備  | (整備面積) ha  | (吸収量) t  |                 | (整備面積) ha                       | (吸収量) t     |         |
|                           | 府内産の木材の利用  | (利用量) m <sup>3</sup>   | (削減量) t  |                 | (利用量) m <sup>3</sup>            | (削減量) t     |         |
|                           | 自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給   | (発電量) kWh  | (削減量) t  |                 | (発電量) kWh                       | (削減量) t     |         |
|                           | グリーン電力の購入  | (熱供給量) GJ  | (削減量) t  |                 | (熱供給量) GJ                       | (削減量) t     |         |
|                           |  | (購入量) kWh  | (削減量) t  |                 | (購入量) kWh                       | (削減量) t     |         |
| 削減量等合計                    |  | *3 t   |  | *5 t            |                                 |             |         |
| 差引排出量<br>(排出合計-削減等合計)     | 基準年度（実績）   | 目標年度（計画）   | 増減率（計画）  | 報告年度（実績）        | 増減率（実績）                         |             |         |
|                           | *1 9,116 t   | (*)-(*) 8,897 t  | -2.4 %   | (*)-(*) 7,270 t | -20.3 %                         |             |         |
| 地球温暖化対策に資する社会貢献活動         | 亀岡事業場は従業員による周辺地域の清掃活動を定期的に行っている。本社は上位グループ主催の自然保護ボランティア活動に参加した。   |  |  |                 |                                 |             |         |
| 特記事項                      | 「平成21年9月1日付で本社は「京都市右京区梅津」から「長岡京市」に移った。よって、本社（梅津）のCO2排出（エネルギー使用）は平成21年4月1日～平成21年8月31日の期間に行われた。「長岡京市」への移動は平成21年6月1日より開始したため、本社（長岡京）としてのCO2排出は平成21年6月1日～平成22年3月31日の期間に行われた。」という論拠に基づくCO2排出量算出を行った。  |  |  |                 |                                 |             |         |

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。  
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度も、「目標年度」とは計画期間の最終年度も、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。  
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。  
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。  
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。  
 6 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達を採用、特定フロンなどの条約指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。